

第7回常任理事会報告

日 時 平成18年11月13日(月)午後3時~同5時
場 所 日本歯科医師会 10階会議室
出席者 <会 長> 江藤一洋 <副 会 長> 黒崎紀正、井出吉信
<総務理事> 住友雅人
<常任理事> 高津茂樹、川添堯彬、相馬邦道、高木忠雄、
佐藤田鶴子、土屋友幸、江里口 彰、恵比須繁之、
赤川安正、宮崎 隆、栗原英見、荒木孝二
第21回日本歯科医学会総会
<会 頭> 大塚・兵衛
<準備委員長> 伊藤公一 <事務局長> 松村英雄

[議長 江藤会長]

1. 開 会

黒崎副会長から、開会の宣言がなされた。

2. 挨拶

江藤会長から、本学会の基本的な執行姿勢を強調した挨拶がなされた。

3. 報 告

(1) 一般会務報告

住友総務理事から、次の資料に基づき一般会務報告がなされた。

一般会務報告(平成18年10月16日~11月12日)

第6回常任理事会報告(平成18年10月16日開催)

第3回常任理事会報告(平成18年10月16日開催)

引き続き、江藤会長から、第1回歯科衛生士業務に関わる検討会(平成18年10月23日開催)において、歯科衛生士業務を明確にし、拡大することで、歯科医療の領域も拡大していきたい旨確認がなされ、日歯への最終答申を前に、各専門分科会から診療補助のパブリックコメントを収集したい旨説明がなされた。

(2) 第21回日本歯科医学会総会準備状況報告

伊藤準備委員長から、標記総会準備の進捗状況について、以下のとおり報告がなされた。

メインテーマ：応募が低調なため、常任委員会内で案を出し再考する。

シンボルマーク：日本大学芸術学部で学生コンペティションを行う。

開 会 式：11月14日（金）15時または16時頃開催予定

会 頭 招 宴：11月14日（金）18時30分または19時頃開催予定

(3) 会計現況報告

高木常任理事から、次の資料に基づき会計現況報告がなされた。

学会会計（平成18年4月1日～9月30日）

第21回日本歯科医学会学術大会会計（平成18年4月1日～9月30日）

(4) 患者提供用文書等について

黒崎副会長から、標記について、日歯、本学会及び厚生省の間で検討を重ね、歯と口の診療情報 義歯・ブリッジ・冠の設計・管理・指導についての2種類の文書様式を作成し、印刷が終了次第発行する旨、以下の資料に基づき報告がなされた。しかし、この文書様式は、現行制度対応下における当面の処置のため、平成20年度に再構築される診療報酬型ガイドラインに即し、根本的な見直しを行わなければならない旨説明がなされた。

引き続き、江藤会長から、文書様式の発行に際し、日本歯科医学会の監修が必須とされている現状を踏まえ、本学会が診療報酬改定に責任があるとの認識を持つ必要がある旨説明がなされた。

患者提供用文書等の作成について（報告）

患者提供用文書等の厚生労働省関係者への提出について（報告）

平成18年度診療報酬改定に伴う「患者提供文書の合理的簡素化」作業の結果報告について（写）

情報提供用文書 様式見本

チェアサイド「医学管理等提供文書作成ガイド」

(5) 平成16年度分複写使用料分配のお知らせについて

住友総務理事から、標記について、次の資料に基づき説明がなされ、本学会に支払われる平成16年度複写使用料分配金は222,695円であったことを確認した。

複写使用料分配のお知らせ

(発信元：学術著作権協会 常務理事兼事務局長 野間 豊)

- (6) 平成19年度厚生労働科学研究費補助金研究課題等の公募について
住友総務理事から、次の資料に基づき、関係方面へのPR協力依頼を兼ねた報告がなされた。

平成19年度厚生労働科学研究費補助金研究課題等の公募について (情報提供)

(発信元：厚生労働省大臣官房厚生科学課)

- (7) 「生きる力を支える歯科医療」(日歯雑誌座談会) について

住友総務理事から、標記について、資料に基づき報告がなされた。

座談会 生きる力を支える歯科医療 看取りのための歯科医療を目指して

(日本歯科医師会雑誌 第59巻 第6号別刷 / 平成18年9月)

- (8) その他

江藤会長から、日歯第8回理事会(平成18年10月26日開催)報告がなされた。
主な項目は以下のとおり。

戦略会議及び歯科医療機器産業ビジョンについて

後期高齢者医療制度のあり方について

歯科医師需給の拡大について

研究機関(日歯内)の設立について

土屋常任理事から、次の資料に基づき、小児歯科でラバーダムシート使用は適切でない旨の情報提供がなされた。

○歯科治療中にアナフィラキシーショックを呈した1 幼児司法解剖例 -

小児におけるラバーダムシート使用上の問題点

(日本法医学雑誌 60 巻 2 号)

4 . 協 議

・平成 19 年度事業計画について

住友総務理事から、標記事業計画について、資料に基づき、国民および人類の健康と福祉の増進に貢献するとの観点から、重点計画 5 項目を掲げた

旨説明がなされ、協議の結果、原案を基本的に全会承認し、次回常任理事会で継続審議とすることとした。

・重点計画の推進について

(1) 歯科医療への学術的根拠の提供体制の構築

1) 歯科医療協議会の当面の方向性について

「歯周病の診断と治療のガイドライン」改定検討部会の運営等について黒崎副会長から、資料に基づき、標記検討部会の運営等について諮られ、原案を全会承認した。

「有床義歯の調整・指導及びブリッジの適応症と設計並びにリベースのガイドライン」改定検討部会の運営等について

黒崎副会長から、資料に基づき、標記検討部会の運営等について諮られ、原案を全会承認した。

また、黒崎副会長から、上記2件については、次期診療報酬改定に向けて、来年7月までにガイドラインを改定させる診療報酬改定型プロジェクトである旨確認がなされた。

歯科診療報酬の評価・再評価の希望書への対応について

江藤会長から、標記について、前回決定した各専門分科会の社保担当を集めたオリエンテーションの実施について、再度確認がなされ、厚労省との連携を緊密に取って、次期（平成20年度）診療報酬改定の対応としたい。そのためには、専門分科会に標記希望書の重要性を訴え、関係者の意識を高めることが必要であり、専門分科会に対し調査したガイドラインの作成状況を踏まえ、歯科診療ガイドラインの作成に取りかかる旨説明がなされた。

2) 歯科診療ガイドラインの作成について

エビデンスに基づく一般歯科診療における院内感染対策（診療ガイドライン）の認定について佐友総務理事から、標記ガイドラインの認定について、提案がなされた。引き続き、本ガイドライン作成（厚労科研費）主任研究者である佐藤常任理事から、資料に基づき、本件の作成経緯及び背景の説明がなされた。協議の結果、普及活動を目的に本学会第1号の診療ガイドラインに認定し、年度内に発行することを決定した。

なお、同ガイドライン発行にあたっての諸手続きの案を事務局が作成することを確認した。

さらに、赤川常任理事から、シリーズ化を考慮し「エビデンスに基づく」という文言を削除されたい旨の提案がなされ、関係ガイドラインの体裁を調整し、最終決定することとした。

(2) 歯科医療技術革新の推進

1) 本学会の役割と今後の方向性

江藤会長から、標記について、今後、具体的に提案する旨の説明がなされ、継続審議とした。

2) 歯科医療器材産業ビジョンの作成

歯科医療機器産業ビジョン作成協議会報告

江藤会長から、標記協議会の進捗状況が報告書を基に説明された。

3) 歯科医療器材の開発改良における諸問題（承認・認可等）の検討

江藤会長から、東医歯大歯科器材・薬品開発センター主催シンポジウムへの後援名義貸与について諮られ、協議の結果、全会これを承認した。

4) 医療ニーズの高い医療機器等に関する要望書の提出について

江藤会長から、標記について、資料に基づき説明がなされ、各専門分科会と日本歯科商工協会へ情報提供し、11月20日(月)までに回答を得ることとした。

また、住友総務理事から、標記について、歯科が該当するものが少ない募集要件ではあるが、多くの提出があるよう要請がなされた。

(3) 学会機構改革の推進

1) 新規加入学会の促進

認定分科会承認基準の策定について

荒木常任理事から、標記承認基準の策定に先立ち、歯学系学会（非専門分科会）へのアンケート調査の実施について次の資料を基に諮られ、現在検討中の認定分科会承認基準（案）を同封の上、歯学系学会へ協力

要請を実施することが決定された。

認定分科会制度の創設に関するアンケートのお願い（案）

歯学系学会（非専門分科会）へのアンケート（案）

日本歯科医学会認定分科会承認基準の制定（専門分科会と認定分科会の条文対照表）

歯学系学会一覧

2) 学術講演会と学術研究の見直し

補助金の見直しについて

学術講演会の見直しについて

江藤会長から、標記について、現在検討中であり、次回以降、具体案を提示する旨報告がなされた。

(4) 認定医・専門医制度の確立

1) 認定医・専門医制審議会の設置の検討

江藤会長から、標記について説明がなされ、第三者を入れた審議会を設置し、その審議結果を踏まえ、専門医制を設けている専門分科会の制度を認定する評価組織の設立を検討したい旨説明がなされ、継続審議とした。

(5) 国際交流の推進

1) 本学会と各国対応機関との交流推進

江藤会長から、8月31日付をもって中国・中華口腔医学会と学術交流協定を締結した旨の報告がなされた。また、今後、国際交流の推進を図るため、タイ、マレーシア等のアジア諸国とも積極的に協定を結ぶ方向で他のアジアの歯科医学会に打診中である旨報告がなされた。

2) 元日本留学生（歯科関係）のネットワーク構築

江藤会長から、標記について、他国が行っているように、国の支援により領事館単位で交流活動を行っていくことを目指す必要性が説かれた。今後、政府と民間でネットワークを作り、歯科が対外的な活動ができる基盤を構築するものであり、継続審議とした。

3) F D Iにおける日歯支援体制の構築

江藤会長から、標記について、アジアで中国の影響力が増す中で日本の果たす役割等の具体的な案を鋭意検討中である旨説明がなされた。

. 事業計画の推進について

(1) 日本歯科放射線学会からの専門医資格認定申請の取り扱いについて

黒崎副会長から、標記専門医資格認定申請について諮られ、専門医名称を「顎口腔放射線専門医」と確認の上、有限責任中間法人日本歯科放射線学会の専門医資格認定申請について、本学会としては『可』とする意思表示を行うこととした。

(2) 平成18年度委託研究課題について

佐藤常任理事から、第2回学術研究委員会の審議結果に基づく、標記委託研究課題の選考について諮られ、原案どおり次の3題を決定した。

縁下歯石除去時の抗菌薬使用のガイドライン

[研究代表者] 金子 明寛 (東海大学医学部 歯科・口腔外科学教室)

障害者・要介護者における口腔乾燥症の診断評価ガイドライン作成

[研究代表者] 柿木 保明 (九州歯科大学摂食機能 リハビリテーション学分野)

象牙質を含めた歯質接着材の選択ガイドライン

[研究代表者] 宮崎 隆 (昭和大学歯学部 歯科理工学講座)

(3) 平成18年度総合的研究推進費課題について

佐藤常任理事から、第2回学術研究委員会の審議結果に基づく、標記課題の選考について諮られ、原案どおり次の4題を決定した。

口腔癌における新しい低侵襲外科治療

- センチネルリンパ節ナビゲーション手術 -

[研究代表者] 長谷川正午 (東京医科歯科大学 硬組織疾患ゲノムセンター)

発光ダイオードを応用した新しい歯科臨床検査機器の開発

[研究代表者] 三輪 全三 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

小児歯科学分野)

咀嚼機能における主機能部位の重要性

[研究代表者] 加藤 均 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
摂食機能保存学分野)

材料学的アプローチによる根面う蝕の予防

[研究代表者] 二階堂 徹 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
う蝕制御学分野)

(4) 第23回「歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い」について
佐藤常任理事から、標記「集い」の企画及び日程（平成19年1月13日開催）
について諮られ、原案どおり決定。

なお、同「集い」は33題の応募の中から10題を選考したものである。

(5) 第7回アジア口腔顎顔面放射線学会議への補助金交付について

住友総務理事から、標記について諮られ、同国際会議が日本歯科放射線
学会が主催する国際学会であることを確認し、補助金交付の対象となるこ
とを決定した。

なお、補助金の交付額については、同会議の規模や計画概要等を精査し、
決定することとした。

(6) 第7回アジア口腔顎顔面放射線学会議への後援名義貸与について

住友総務理事から、標記について諮られ、後援の名義貸与を承認した。

(7) 東医歯大歯科器材・薬品開発センター主催シンポジウムへの後援名義貸与について

前述の、協議。(2)3「歯科医療器材の開発改良における諸問題(承認・認可等)の検討」にて協議し承認した。

(8) 『国民へのアピール推進チーム』委員の推薦について

住友総務理事から、日歯より依頼のあった標記委員の推薦について諮られ、
住友総務理事の推薦を全会で承認した。

5. 閉 会

黒崎副会長から、閉会の辞が述べられた。